

第 102 回教育課程小委員会議事録

1 日時・場所

2026 年 6 月 22 日(月曜日) 21:15－22:10 オンライン会議

2 参加者(以降、敬称略)

(地学)相川、阿部、市川、飯田和也、小林、高田、田口、富樫、畠山、林、宮嶋、渡邊

(地理)高橋、中山

3 協議

(1)パブリックセッションの総括と次年度の計画

○今年度のパブリックセッション「気候変動をまなぶ・ひらく・つなぐ-若者と研究者で語ろう-」についてコンビーナより以下の報告があった。

- ・中高生・大学生を中心に計 153 名(現地 101 名、オンライン 52 名)が参加。アンケートでも高い評価を得た。
- ・臨機応変な会場対応がなされ、事前打ち合わせによる講演者の不安解消、新しいコンビーナの活躍(世代交代・裾野の拡大)があった。
- ・課題として、講演時間超過による総合討論ができなかったこと、アンケート配布方法(紙の併用など)、フライヤー(チラシ)の工夫等があげられる。

○次年度のパブリックセッションに向けて

- ・今年度のコンビーナが反省点・申し送り事項を文書化し、夏休み中に今期・次期のメンバーで議論、10 月上旬のセッション提案に向けて新体制を立ち上げる。

(2)次期小委員会の委員改選と役割分担

- ・委員継続の確認(期日: 6 月 30 日)は 10 名ほどから回答済み。遅れているメンバーへの催促を進める。
- ・宮嶋委員が教育担当理事および教育検討委員会委員長に就任。新しい体制がスタートする 7 月末までにメンバーを揃えたい意向。

(3)地学教育関連の活動計画

- ・「理数系学会教育問題連絡会」のオンラインシンポジウムが日程調整中。
- ・2 つの教員研修(防災・地形学(オンライン)、等々力溪谷現地見学)の受講者を募集中。
- ・小委員会の活動として、これまで目標とされた、現行教科書分析から「次期学習指導要領」の方向性分析や教材提案へのシフトが提案された。
- ・これに関して、スケジュールを見極めて短期的・中長期的な取り組みに分け、マンパワーを考慮して選択・集中すべきとの意見が出された。

(4)地学教育関係者交流会の計画

- ・今年度も前年度に引き続き、全国地学教育関係者交流会を実施する方向で進める。

4 次回小委員会

夏休みに入った時点を目安に開催を検討する。

以上